



国鉄新潟

NO. 949
 発行
 2018年
 6月19日
 国鉄労働組合
 新潟地方本部
 発行責任者
 加藤 秀夫
 編集責任者
 教 宣 部

出向先は要員が足りない

地本・「60歳及びエルダー組合員対象者会議」が6月9日、10時30分より地本事務所で開催、全体で18名が出席し出向先の現状報告や問題点などが出されました。

全体で共有したい 羽豆業務部長

出向後、劣悪な労働条件で、すぐ辞めざるをえない現状が続いている中、本年度から、新たなエルダー制度とな



り、JR本体への希望も可能になった。出向先会社への団交が出来ないが、出席者から問題点を出していただいで全体で共有していきたい。

相互交流を深める 加藤委員長

エルダー先の雇用の確保と労働条件改善をめざしていた。新たな出向先の労働条件は改善されていない。情報の共有は必要だ。

一番大切なのは相互交流を深めることが主旨だ。



60歳及びエルダー組合員
対象者会議開く

全体の意見交換

羽豆業務部長、加藤執行委員長のあいさつの後、出席者から職場の現状や問題点について意見交換がありました。

○出向先の会社はビル清掃など



まったく要員が足りない状態なので見習い期間が無い。主な現場は、病院や介護施設などで精神病院も清掃する。介護施設も同様で準備作業が大変な作業になっている。

罵声を浴びせられる

病室の清掃では入院している人の荷物を移動してから作業する。終了後、移動した荷物などと同じところに戻す作業があり、もたもたしていると怒鳴られたり罵声を浴びせられる。

清掃業務も大切だが、入院している人へケガをさせないこと。移動した荷物などを同じ場所に戻すことがとても大変で苦勞する。人がいないから、新人の時、作業しながら作業指導される状況になっている。余裕が無い。



パラハラ状態

毎回パラハラ状態だ。若いバイトさんは優しく教えてくれる。しかし、この環境に耐えられない気持ちになったら辞める。

空調関係の掃除は、空調の設備はペットの上にある。作業中、この機械が落下した。ケガ人は出なかつたが厳しい状況だ。

(裏面につづく)

地本主催 ボウリング大会

- 6月23日
- 会場が変更になりました。
- 黒埼グランドボウル

●当初、ラウンド1が会場でしたが、予約がとれず、会場を変更しました。

現在、新潟市中心部ではボウリング場が二つしか無いそうです。ラウンド1と黒埼グランドボウルです。シルバーボウルや駅南のグランドボウルは閉店していました。



相互で要員を確保

○貨物会社は、出向先の確保ができない時があったがそのとき、旅客会社の出向者が行かない会社へ貨物から出向していた。

セコムの現状は厳しいから辞めていく。勤務がきつい。欠員状態なので超勤が発生する勤務になっている。



辞めていく人が多い

社員への雇用のチャンスがある。3年間勤務すると登用試験の受験ができるが、30人受けて合格するのは2〜3人。

警備会社は、2020年東京オリピックのため要員が必要だが辞めていく人が多い。

警備会社20数社で共同体として運営している。相互で要員を確保していく。要員が足りない時は県外からの要請があり赤字を覚悟で対応しなければならぬ。



制度可能な出向先会社について

○エルダー制度の見直しで休日の増(短日数休日・月4日)、それをまかなえる仕事内容ではない。しかしエルダーでJR本体に残ったものだけが可能だ。

外部へ出向した人には適応できない。せつかくの制度を出向先会社も可能にしていこう。

NTSは6000円の賃上げ増となった。3ヶ月前は厳しい経営だったが4月から変わった。JR業務が丸投げになるのではないか。それで一律賃金の増になったのではないか。

乗務員効率化の影響。エルダーだけでは組織化できない。他労組はエルダーになってから組合を脱退している。7〜8割強だ。

JRから委託化されてJRで出来なかった合理化をやっている。要員の減をやっている。合理化がこれからある。NTSなど出向先会社への団交など交渉し労働環境を改善して欲しい。(次号につづく)

当面する活動日程

- 6月30日(土)
書記長・組織部長会議
東京地本会議室
- 7月24日(火)
交運共済運営委員会
東京交通ビルB1F
- 7月26日(木)～
7月27日(金)
第87回全国大会
- 8月24日(金)～
8月25日(土)
第32回東日本大会



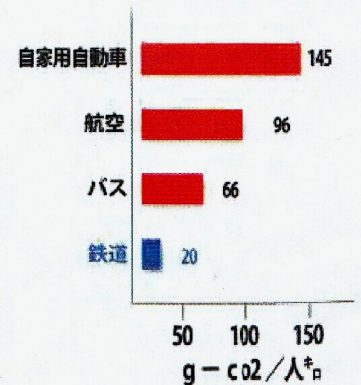
北海道の鉄道の再生を考える

貨物列車による線路負荷の比較

	旅客(A) [百万人 ^年]	貨物(B) [百万人 ^年]	B÷A
JR北海道	4,223	2,384	56%
JR本州三社	156,191	17,883	11%
JR四国	1,392	81	6%
JR九州	7,275	681	9%

北海道運輸局資料より抜粋

輸送量当たりの二酸化炭素の排出量(旅客)



国土交通省資料より抜粋

改めて考える 鉄道の役割

- 日常生活で安全・確実に利用できる交通手段
 - 通勤・通学・通院・買い物・ビジネス活動など日常生活に必要不可欠です。
 - 全国の交通ネットワークと結びついている。
 - 他の交通機関との連結が容易。近年増加傾向にある外国人の利用が増えています。
 - 農産物の貨物輸送
 - 食糧基地北海道の農水産物等を本州へ輸送するのに大きな役割を果たしています。
 - 地球環境に優しい鉄道
 - 二酸化炭素排出量は、車の7分の1。
- 鉄道の社会的なエネルギー消費量は、車の8分の1。
- (北海道の鉄道の再生と地域の発展をめざす全道連絡会) 参考資料

